

身につける^{モノ}民具^{てんじ}展示ガイド

第2回 テーマ展

^{モノ}身につける民具

2024 2/6^火 ~ 6/16^日

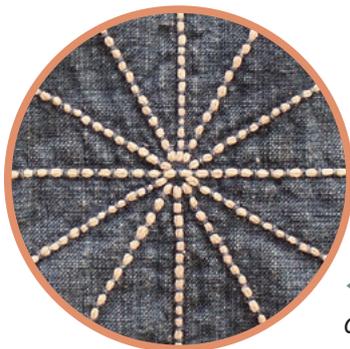
サシゴジバンの麻の葉文様
(木綿・9-147)

バンドリの編み目
(ワラ、スゲ・2-1-77)



はじめに

伝統的な仕事着 山仕事や田畑仕事の時、暑さ寒さ、風や日ざしから身を守るのが仕事着です。国指定民具の仕事着コレクションには、1940年代ごろから2000年ごろに用いられた伝統的な仕事着が集められています。只見の人々は自分で仕事着を作って、当て布や刺し子で補強しながら、仕事がしやすいものに工夫して一着を長く着ました。長年着てきた仕事着は体になじみ、仕事の頼もしいパートナーとなりしました。



◀サシコジバンの刺し目



◀サシコジュバンの当て布

虫めがねで観察しよう 仕事着の素材は木綿・麻などの自然素材で、織り方や文様は江戸時代以来の伝統的なものです。今回の展示では入館者に虫めがねを持ってもらい、仕事着の文様や織り方を拡大して観察していただきます。民芸運動の柳宗悦は、日常の用具は「用いられて美しく、美しくなるがゆえに、人はさらにそれを用いる」（『雑器の美』1926年）と説きました。虫めがねを持って、暮らしを彩った美しい民具の織り目や文様と、暮らしの智恵と技を観てください。

ただみ・モノとくらしのミュージアム館長 久野俊彦

『北越雪譜』(1841年)の民具の図と似た民具を展示品の中から探そう



※名称と素材は『北越雪譜』による。

第1章 かぶる



カンゼンブシ (T745) 素材：クグ

雪除け、防寒具。

頭から肩までおお^{みの}う蓑帽子の一種。頭と着物の両方を雪から守ることができ、雪を振りは^{ちようほう}らうのも楽なことから重宝された。



『旅行用心集』(1810年)の

「くわんぜん帽子」の図

木綿で作^{まわた}り、真綿を入れた江戸の町で用いられた防寒具。只見町のカンゼンブシは、これをスゲやクグで作ったもの。雪除けの帽子をカンゼンブシと呼ぶのは、会津地方特有である。



カクマキ (T652)

雪除け、防寒具。

毛織物^{おりもの}や綿織物。女性用の防寒具として普及^ふした。ほぼ全身がすっぽりおおわれている「カクマキ」姿は雪国の風物詩^{ふうぶつし}ともなった。



カサ (A6496) 素材：スゲ
雨・雪除け。



フタセツテンゲー (9-403)
手ぬぐい。



カンカンボウ (A7717)
麦わら帽子の一種。洋装・和装に使用された。



セントウボウ (T535)
戦時に国民がかぶった帽子。

第2章 きる



バンドリ (2-1-77) 素材：ワラ, スゲ

重い荷物を背負う時の背中当て。

最初は新潟県の人が売りに来たが、後には地元の人
が作った。

ニナ（荷縄）が肩に食い込んだり、背中に固いものが
当たるのを和らげる効果がある。



ネコミノ (2-1-80) 素材：スゲ、布、ワラ
雨除け蓑と背負い蓑との兼用で、家印や
縁起のよい文様を布で織り込む。



ミノ (9-414) 素材：スゲ、シナ
雨・雪除け。



シゴトシ (9-160)
仕事用上衣。



ホソユッコギ (9-47)
仕事用下衣。



サシコジュバン (9-196)

やぶれた部分に木綿布をあて刺した仕事着。



サシコジバン (9-147)

たてまえ
建前など祝いの時着用する。主に
いながわ
伊南川流域の地域で着用した。



シルシバンテン (M2070)

はんでん
消防用の絆纏。



テッカワ (3-24)

しゅりょう
狩猟用の手袋。ニホンカモシカ
の毛皮でできている。



ポロオビ (9-397)

女性が仕事着を着る際につけた帯。
縦糸に絹を、横糸には古着や端切れ
布を裂いて使用した。

第3章 はく



サシコタビ (1-82)

木綿布に麻糸や木綿糸で刺した足袋。^{たび}



ツマガケ (9-122)

素材：ワラ、シナ、スゲ

初冬の仕事の時に、ワラジにつけて履く。^は
つま先を保護する。



ワラジ (9-65)

素材：ワラ



ゾウリ (A6340)

素材：ワラ、布



ヤマゲンベイ (5-494)

素材：ワラ

冬の山仕事に着用する。



シブツカラミ (9-125)

ゲンベイを履く時、防寒のため足に巻く。

コウガケ (甲掛け) ともいう。



ハバキ (9-135) 素材：ガマ, 毛糸, 麻糸
冬の山仕事の時に、脛を保護するため使用する。



フカグツ (A4763) 素材：ワラ, 麻紐
ゲンベイにハバキをつけたもの。



マルカンジキ (9-369)
素材：タケ, 縄, 麻糸
新雪の歩行および雪道踏みに使用する。



ツメカンジキ (9-144)
素材：木, 縄
堅雪の山仕事や狩猟の時に着用する。
ツメはすべり止めの役目をする。

※民具名の後の番号は、国指定民具番号または町収集民具番号である。

発行 ただみ・モノとくらしのミュージアム

〒968-0602 福島県南会津郡只見町大倉窪田30番地

TEL. 0241-86-2175 E-mail: mono_kurashi_museum@hyper.ocn.ne.jp

企画・展示：原永円香、目黒仁也、鈴木みゆき、久野俊彦

執筆・編集：原永円香 (学芸員)

制作：風光舎

発行日 2024年2月6日